

# 誤飲

わが国では誤飲事故が外国に比べて非常に多く発生しています。それは玄関で靴を脱ぎ、屋内では畳や床に座って暮らす生活スタイルが原因とされています。

赤ちゃんは生後5～6か月になると、正常な発達行動として手にしたものを何でも口に持っていきようになります。

しかし、赤ちゃんには手にしたものが食べられるかどうかの判断はできません。もし、赤ちゃんの手にしたものが食べられないものなら、誤飲事故がおこってしまいます。

## 危険な誤飲ワースト5

誤飲

第1位  
たばこ



第2位  
医薬品

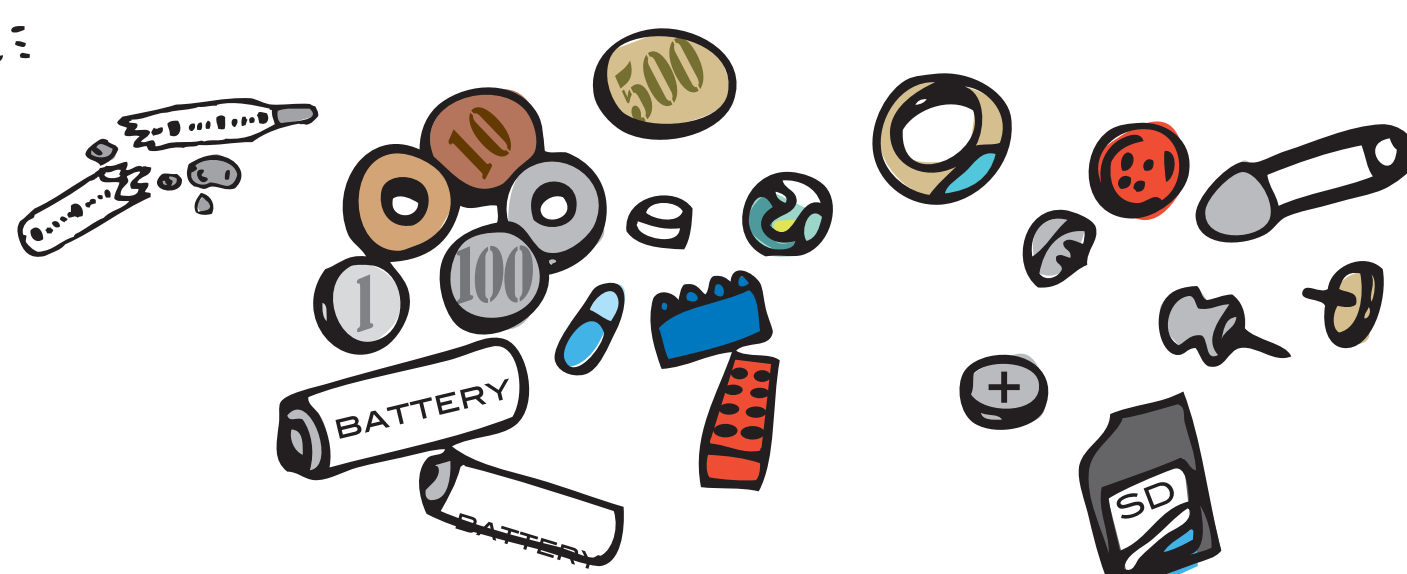
第3位  
化粧品



第4位  
洗浄剤



第5位  
殺虫剤



## 子どもの誤飲事故の原因となった主な異物

### 《 年齢ごとにみた異物の特徴 》

#### ●0歳の事故(1,044件)

10歳未満の38.5%を占めているが、その中で最も多い異物はタバコ700件で、0歳の事故全体の67.0%を占める。以下は医薬品33件(3.2%)、洗浄剤等29件(2.8%)。

#### ●1歳の事故(956件)

最も多いのは、タバコの317件で、1歳の事故全体に占める割合は33.2%である。0歳の同割合(67.0%)に比べると小さい。一方で、医薬品139件(14.5%)、洗浄剤等58件(6.1%)の件数が0歳に比べて増える。

#### ●2歳の事故(365件)

最も多いのは医薬品の96件。2歳の事故全体に医薬品が占める割合は26.3%とほかの年齢に比べ最も高い。次いでコイン37件(10.1%)、ビー玉・おはじき等の玩具36件(9.9%)が2、3位を占める。この年齢層から6歳まで、医薬品、コイン、ビー玉・おはじき等の玩具が上位3位を占めている。

#### ●3歳の事故(151件)

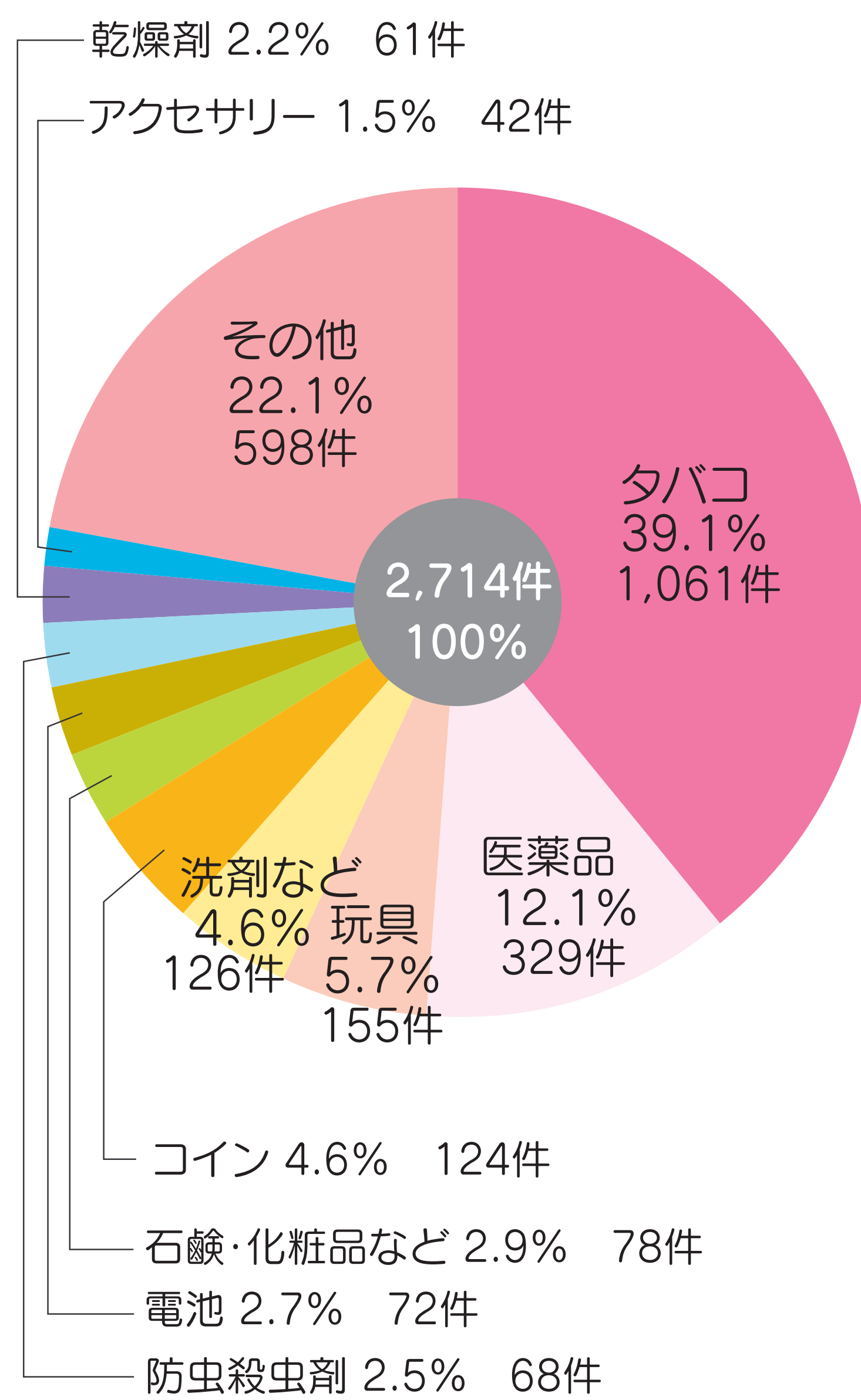
最も多いのは2歳と同様医薬品39件で、3歳の事故全体に占める割合も25.8%と2歳に次いで高い。

#### ●4歳の事故(64件)

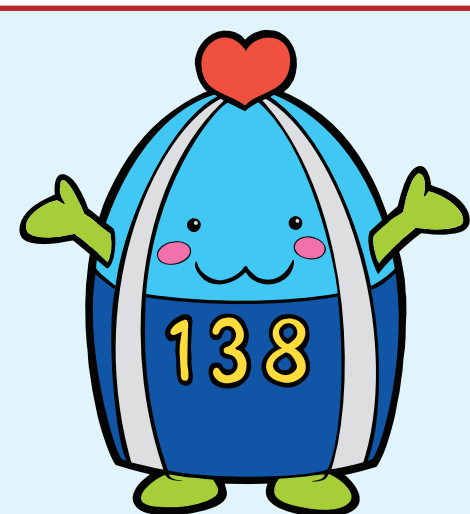
最も多いのはビー玉・おはじき等の玩具14件で医薬品7件を上回る。この年齢層以降の事故件数は0～3歳と比べて格段に減少する。

#### ●5～9歳(134件)

5～7歳ではビー玉・おはじき等の玩具での事故、8～9歳ではコインでの事故が最も多い。



出典：2005年 国民生活センター調査資料より



### 何か飲み込んだ! 即チェック!!

1. 何を飲み込んだか?
2. どのくらい飲んだか?

**大至急 こんな時は病院へ**

1. 危険なものを飲み込んだ!  
吐かせると危険なものもあります。とがったもの、お風呂用洗剤などの強酸性や強アルカリ性製品、除光液など石油製品は吐かせずに大至急病院へ。
2. 反応が鈍い・具合が悪い
3. 意識がない・けいれんした
4. 呼吸が苦しそう・呼吸ができない

